

## ～視力検査のご案内～



弱視・斜視の早期発見のため、屈折検査を行うことになりました。

### 🌀視力の発達について

お子さんの目は、3歳までに急激に発達し、6～8歳くらいでほぼ完成します。ところが強い屈折異常（遠視、近視、乱視）や斜視があると、目の正常な機能の発達が阻害され、弱視（めがねやコンタクトをしても視力が出ないこと）や両眼視の異常をきたします。目の異常を早期に発見し、適切な治療を開始できれば、視力の回復が見込めます。そのため、早期発見、早期治療が大切です。しかし、乳幼児は見えにくさを自覚していないことが多く、家族も気づきません。

### 🌀屈折検査とは

眼のピントが合うために必要な度数（屈折：近視・遠視・乱視）を調べる検査です。この検査をすることで、視力の発達を妨げる原因がわかることもあります。

また、視力検査だけでは目の異常を見逃してしまう恐れがありますが、屈折検査をすることで、見逃しを減らすことができます。

※機器での測定は誤差が生じることがあり、この検査で異常を指摘されても、精密検査では正常となることもあります。

### 🌀3歳児健診での視力検査方法

- 絵指標を用いた検査（ご家庭で実施してください）

同封の絵指標（練習用・2.5m用）を用いて実施し、結果を問診票にご記入ください。

検査方法につきましては、裏面をご覧ください。

- 屈折検査（健診当日に会場で実施します）

屈折検査機器を使用し、目のピントが合うために必要な度数（屈折）を調べます。検査時間は約30秒～1分ほどで終了します。椅子に座り、機器と対面する方法で行います。



### 🌀この検査で異常を指摘されたら

赤穂市内の眼科を受診して精密検査を受けましょう。

眼科での精密検査では、視力・屈折・眼位・角膜・水晶体・眼底などに異常がないかを調べます。

子どもの目の病気は本人が不自由を訴えないことが多く、治療が手遅れになってしまう恐れがあります。見え方に問題がないようでも、必ず眼科を受診しましょう。

※日本眼科医会公式 YouTube チャンネルにて子どもの弱視見逃しを防ぐ啓発動画が公開されています。

ぜひともご覧ください。



**「STOP! 弱視見逃し」**

URL: <https://youtu.be/ju-0ZrskOjQ>

